



刊夕 日二月四

支那單語
氣候風土に合はないと云ふことを水土不服でシユイトウブフ、木の葉が落ちたは樹葉落了でシユイニエラオラ、スプにあらると云ふを埃埃火燧子でアイチオホルウツと云

軍保護馬その他に

飼料百五ト配給

大豆五〇噸、同粕五五噸
馬匹の飼料不足に對する縣經 招集、配當について協議をな 由の同配給は石城産馬組合に すがだが郡下の馬生産者二四 五〇人にはまだ一及ぶもの 對し大豆五〇噸、大豆粕五五 噸(内畜牛組合分五噸)の割當 て通知を得たので同組合では 明後五日午前十時から平市郡 團休事務所各町村關係者を

櫻花期のトップ

縣電協會の總會

來る十二日平市公會堂にて
表彰式と戰歿者慰靈祭
本縣電氣協會第五回通管總 斯の種の花期の催としては本 會は大日電力事務所の當番 年のトップを切つたもので特 主催で松ヶ岡公園の櫻花期に 催すべく準備中であることは 會報の如く同總會は來る十二 日午後一時から市公會堂に於 て開催することになった、會 議の順序は左記の如く午後六 時から公會堂日本間で懇親の 宴をなすことになつてゐるが

戦地の便り

降る雨の中を 船を肩に四日間

前略、戦に明け戦に暮れ行 く陣中に皇紀二千六百年の 新春を迎ひ遙かに遠い祖國 を偲ぶ時只々感無量です 戰場と云ひ意外の御疎遠誠

千葉右近氏の 大陸進出

平第二小學校長から北支天津 青年學校長となつた千葉右近 氏は外務省の發令(外地校は 外務省の直轄)をまつて近 向ふことになつてゐるが郡視 學から縣視學を経て現在に及 ぶ當年四十九歳の働き盛りを 本縣教育會から大陸への進出 を見ることになつた期待をか けられてゐる、同氏は石城郡 警備隊の警中卒本隊師範 二部出の秀才であつて高師出 身の長男、横濱高工出の次男 臨教出の三男等一家を擧げて 世に活躍されてゐる、氏の天 津への榮轉は今後に目ざまし きのあるを唱ひられてゐる

特別執行

昨夜平署にて 平署では昨日の興亞奉公日 の當夜委員の招集を行ひ一般 民衆が果して當日の趣旨目的 に深き認識をもつてゐるか否 か又各料理、飲食店その他の 業者が確かに業を休んで當日 が遵守してゐるかどうか或は 遊蕩気分が浮かれてゐるもの があつたかと特別執行を なしたところ何れも自肅自戒 の徹底振りであつたので渡部 署長も意を強ふしてゐる

土木報國の 荒本技師退職

感謝状に金一封 石城郡小川江筋土木技師荒本 荒太郎(三)氏は去る大正十二 年以來同水利組合専任に飯川 堰の囑託を兼ね郡下二大水利 に盡すところ多く小川江全水 路の改修、飯川堰の復活工事 を完成したので縣土木課の奉 職以來現在に及ぶ縣下新界の 長老として晩年の華を飾り十 四年度末を以て職を退いたが 組合では同氏の大きな功績に 對して感謝状に金一封を添え て贈呈した

無料で實驗中の マグネタイザー

平市二丁目目開業の村松氏
物理療法最大の權威と云はれ 爲めこれを勧められてゐるだけ に力強い確信を以て一般に呼び かけ前記十數日間の無料實驗 で快癒した者に宣傳して貰ふ と云ふ堅實な建て前で受療者 を誘つてゐる

高橋所長の榮轉

夏井川改修事務所長高橋恒吉 氏は今同縣土木部の河川課へ 榮轉、昨一日平發で赴任した 同氏は去る昭和七年仁井田川 の改修事務所長から引續く在 勤で夏井川の改修並びに附帯 工事の平市新川改修等八、九 分までの進捗に近づけた盡力 を一般に認められてゐる、尙 ほ前任は縣土木部河川課の加 藤高橋技師である

重田農林技師 石城漁港視察

農林省重田技師は昨日石城 に来り、九面漁港から小濱、小 名濱、江名、中の作の港灣視察 を行ひ今後の修築設計その他 につき調査をなして即日歸京 した

小名濱水講合格

本縣水産試験場の小名濱水産 講習所の本年入學者は左記三 十一名が合格した

大會の開催で 警防團長會

今日平署にて 平署警防團長會議は今日二 日午前十時から同署會議室に 開き來る櫻花期に催される縣 下警防團總會の諸經費につき 協議をなした総會費は切り した

大會の開催で 警防團長會

今日平署にて 平署警防團長會議は今日二 日午前十時から同署會議室に 開き來る櫻花期に催される縣 下警防團總會の諸經費につき 協議をなした総會費は切り した

衛安島富士夫 根本大 江尻善江 鈴木義明

軍郵機へ献金 上野野高卒女生 石城郡上野野小學校高卒女生 一同は十四年度の授業料納入 成績優良であつたに對し卒業 式當日同村役場から表彰状に 添えて贈られた金二圓を軍事 郵便機基金に献納した

町村長會 大會應援の 應援ポンプ購入協議

平市に開催される縣下警防團 大會は期日漸く近づき地元は 諸準備に忙殺されてゐるが右 對する應援を請ふべく平署 警防團長會を今日午後一 時から平署の會議室に開催しな して平署近郊の應援ポンプ購入 について具体化の打合せを行

閑談片々

満 莊 春寒料峭、老いの身のた ち居に懶く冬眠の蛇と等しく 火桶を抱えて机に倚り座右に ありし子規句集など繕き居り 際たま／＼客の來るありて 全句集中より左の句を抄出し て其意を問はる圍りて答へて 曰く、 蛇穴を出て三分の天下かな

新與ダイヤン付 ウエル萬年筆

二、〇〇以上 本先ハ獨特ノ新合 金製耐酸、耐蝕、耐磨 金ペンニ劣ラズ感觸 而モ堅牢、優美、安價 ノ三拍子揃ヒニテ眞 ニ新興國策製品

衛安島富士夫 根本大 江尻善江 鈴木義明

軍郵機へ献金 上野野高卒女生 石城郡上野野小學校高卒女生 一同は十四年度の授業料納入 成績優良であつたに對し卒業 式當日同村役場から表彰状に 添えて贈られた金二圓を軍事 郵便機基金に献納した

衛安島富士夫 根本大 江尻善江 鈴木義明

軍郵機へ献金 上野野高卒女生 石城郡上野野小學校高卒女生 一同は十四年度の授業料納入 成績優良であつたに對し卒業 式當日同村役場から表彰状に 添えて贈られた金二圓を軍事 郵便機基金に献納した

衛安島富士夫 根本大 江尻善江 鈴木義明

軍郵機へ献金 上野野高卒女生 石城郡上野野小學校高卒女生 一同は十四年度の授業料納入 成績優良であつたに對し卒業 式當日同村役場から表彰状に 添えて贈られた金二圓を軍事 郵便機基金に献納した

産業

難病萎縮病と

十六年取組む

(下) 大敵の征伐に結論を得た篤農家の應急策
この萎縮病の周知の通り學界をあげて長年の研究を重ねながら未だ完全な治療法を見出し得ないので、方法の第一にあげてある「一株のうちに萎縮枝條と健康枝條とある場合」の文句から推察すると内藤氏は萎縮病と桑樹の根本關係につきまだ株の觀念を脱しきれず、をられるらしい、別言すれば健康枝と萎縮枝とをその株において關聯するものと考へてをられるらしい、若しそうとすればこの病氣に對する觀念の第一誤謬に陥つたものであつてこの場合は五本なり六本なりの枝條はその一つ一つが一株と考へるべきです、つまり萎縮病の場合は健康枝と其の株は全く無關係のものとして考へて研究すべきです、伐採の時期を二月から三月とするは適當の處置です、次に罹病したる場合の肥料について追記してゐないが前記の處置と共に堆肥の腐熟したるものに下肥をまぜて桑樹の根の本に施用するが肝要です、なほ参考までに現在までの防除原則を述べれば▲重症の場合は二、三年間はそのままにして後に發芽前伐採する▲輕症の場合は發芽前に代採する▲その次ぎの程度である中症の場合は發芽前伐採するか二

三年間は桑葉を摘まないこと云ふことになつてゐるのです(完り)

肉の御用命は

三三三屋

牛も豚も優良品の自慢

内科、小兒科
大森醫院
醫學士 大森 勇
平市南町 電二五八番

入院 應需

根本 婦人科醫院
平市南町
根本 莊次郎
根本 貞雄
電話 三四番

(入院隨時)

お醤油は ヤマフル

醬油、味噌
たひら正宗
經節食料品

山崎合名會社
電話 本 店部一〇番
山崎與三郎

明治生命磐城代理店

大小の御宴會にホール
御家族の御同伴に御座敷
いつも材料を吟味して居ります

マルトモ食堂
平市四丁目(電話一三三番)

内科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科
平市田町 電話五一三番
高久病院
院長 醫學士 高久忠

便利で 日下家政婦會の
經濟な 派出婦を御利用下さい
身元確かで品行方正ですから
何を任せしても安心です
平市一丁目三十一番地(電話七二三番)

日下家政婦會
會長 日下すい子
會員同志の御加入派出なき限りに裁縫や
を御授け致します(編物をお教授致します)

御婚禮着付
和洋結髪
貸衣裳、貸か
つら、御利
用下さい

何卒御用命の程を
手塚美容院
平市新田町
(徒弟入用)

益屋商店
九九・九電

和洋結髪、金物問屋

時局下の女性
◎社會待望の高尚なる職業婦人
◎または御家庭の衛生學として
◎産婆看護婦をお奨め致します

第三十六回生徒募集

平南町 産婆看護婦學校へ
平 産婆學校
校長 清野キヨ

病室増築、手術室完備
産科 醫學博士
婦人科 五十嵐雄二
平市新川町一(電話二六九番)

診療科目

- 一、齒科一般
保存科、補綴科、繼續架工科、
齒列矯正科、小兒科、齒槽膿漏科、
- 一、口腔外科
- 一、レントゲン科

中野齒科醫院
電話五〇九番
院長 日本齒科醫學士 中野慈次
日大醫學士 齋谷伍郎
主任 佐藤重盛

帝國海上保險株式會社

安田系統の帝國海上
平代理店 關内正一
事務取扱者 阿部助次郎
平市二丁目(電話一六番)